

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市観光審議会
- 2 開催日時 平成26年10月29日（水） 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 茨城県三の丸庁舎 3階 会議室A
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 三上 靖彦, 玉造 順一, 大橋 章, 林 太一, 石原 栄二,
鹿倉 よし江, 久信田 もと子, 仲田 光子, 大関 茂, 小川 啓子,
小松崎 節子, 羽石 英司
 - (2) 執行機関 飯村産業経済部長, 白石観光課長, 小川観光課副参事兼課長補佐,
鯉渕観光課企画物産係長, 北井観光課主事
 - (3) その他 株式会社常陽産業研究所（水戸市観光基本計画策定業務受託業者）
久保田フェロー, 海老原地域研究部次長, 長嶋地域研究部調査役
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 挨拶（公開）
 - (2) 水戸市観光基本計画（第3次）（素案）について（公開）
 - (3) 「水戸市観光基本計画（第3次）」策定のスケジュールについて（公開）
 - (4) その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
 - ・水戸市観光審議会資料（「水戸市観光基本計画（第3次）（素案）」）
 - ・「水戸市観光基本計画（第3次）」策定のスケジュールについて[参考]
 - ・水戸市観光審議会条例
 - ・水戸市観光審議会委員名簿
- 9 発言の内容
別紙 会議録のとおり

平成 26 年度 第 3 回水戸市観光審議会 会議録

事務局 定刻になりましたので、ただ今から、平成 26 年度 第 3 回水戸市観光審議会を始めさせていただきます。

初めに本会の会長から御挨拶を頂くところではございますが、本日、欠席ということでございますので、代わりまして_____副会長から御挨拶を頂きたいと思えます。

副会長 _____挨拶_____

事務局 それでは、会議に先立ち本日の出席者数を報告させていただきます。審議会委員 20 名のうち 12 名が出席しており、委員の 2 分の 1 以上の出席がありますので、本審議会は成立しております。

さて、本日の審議会は「水戸市附属機関の会議の公開に関する規程」により公開となっております。

会議録の作成のため、会議録署名人をお二方、審議会の中で指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事に入ります。議事の進行につきましては、水戸市観光審議会条例第 6 条第 1 項の規定により、会長にお願いするところではございますが、同条例第 5 条第 3 項の規定により、_____副会長に代理をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

副会長（以下、議長） それでは、会長に代わり進めさせていただきます。審議に入る前に、ただ今、事務局より説明がございました附属機関の会議の公開制度に基づき、会議録署名人 2 名を指名いたします。

_____委員， _____委員以上 2 名の方を指名いたしますのでよろしくお願いいたします。

それでは、審議に入ります。8 月に開催いたしました平成 26 年度 第 2 回水戸市観光審議会において皆様から頂きました水戸市観光基本計画（第 3 次）素案に対する御意見を踏まえ、関係課等との調整を経て、事務局において、素案を修正いたしました。こちらにつきまして、内容を事務局から説明願います。

事務局 (資料「水戸市観光基本計画（第 3 次）(素案)」に沿って、前回の審議会から修正した箇所や変更を加えた箇所を中心に説明)

議長 さて、今の説明のみでは、分かりにくいと思うので、議論の前に 28 ページの「施策の体系」について説明をしたい。将来イメージの「おもてなしと歴史・文化・自然によってあらたな感動に出会えるまち水戸」は、こういうまちをつくりたいという目標である。基本戦略の「訪れてみたいと思える観光まちづくり」はそれぞれの観光資源（コンテンツ）そのもの（偕楽園、弘道館、納豆など）の魅力向上、「巡りたいと思える観光まちづくり」は観光資源そのものの魅力を向上した上での観光の

仕掛けやつながり、つまり連携力の強化のことを言っている。「伝えたいと思える観光まちづくり」は市民・行政が外に対してどうアピールしていくか、情報発信力の強化やそのための体制のことを言っている。それに基づいて施策を組み替えているので、それを踏まえて御覧いただければ、組替えの理由が分かるだろう。以上を踏まえ、自由に御意見を頂戴したい。

委員 72 ページの「自然観光まちづくり推進プロジェクト」の目標指標で 2023 年度の偕楽園の年間入込観光客数の目標値が現在の 95 万人から 120 万人へ増加となっているが、現在の偕楽園の梅まつりの入込客数は震災前の半分程度になっており、元々は梅まつりだけで 100 万人来ていた。それを考えると目標値として低すぎないか。この目標では、震災前の水準にさえ戻らないということではないか。3 年間で震災前の水準にまで戻して更に 5 年後には、200 万人ぐらいあっても良いのではないか。

委員 震災前と後で入込客数の測定方法が変わっている。震災前の偕楽園の入込客数は、主催者発表の数字をそのまま載せていたため、6 ページの表 - ⑥「主要イベントの入込客数」では 100 万人程度となっているが、現在の測定方法では 70 万人程度と推定している。そういう意味では、水戸市第 6 次総合計画の「10 年間で観光交流人口 100 万人の増」という目標と整合させた結果、偕楽園については、現況プラス 30 万人が妥当であると考えている。梅まつりで 70～80 万人を確保して、年間で 120 万人を確保したい。

議長 今後 2～3 年たって、入込観光客数の実績を見ながら、場合によっては上方修正すれば良いと思う。

委員 資料などに掲載されている 5 年前などの数字は主催者発表の数字ということか。観光に携わっているので、梅まつりの観光バスの状況などを見ているが、100 万人から 50 万人に減ったというのは、単に測定方法の変更というだけでなく、確かな実態だと思っている。目標は高い方が良いので、10 年後の目標であれば、150 万人は欲しい。

委員 6 ページの表 - ⑥「主要イベントの入込客数」を見ると黄門まつりはほぼ横ばいとなっているが、梅まつりは随分減っている。資料では「震災以降回復していないことが主な原因」とあるが、梅まつりに人が来ないのは、震災の影響だけではないのではないか。

委員 黄門まつりは主に県内客で、梅まつりは主に県外客である。黄門まつりは残念ながら県外からお客さんをお客さんと呼べる祭りではない。客層が異なるので分けて考えるべき。

委員 水戸はあれこれやるが、ポイントを絞り切れていないため、散漫的になっているのではないか。今までやってきたことを変えないで人を呼ぼうとしても難しい。県外から来る観光客の目でものを見てみれば、やり方・方法・順番が少し変わってくるのではないか。そこから弾みがどんどん付いてくれば、スピードアップして、い

ろいろなことができるようになるのではないか。

事務局 今回の観光基本計画では重点的にやっていきたいものを重点プロジェクトとして掲げている。本審議会では是非優先順位など具体的に示していただきたい。

委員 5 ページの表-⑤「利用交通機関別入込観光客の推移」を見ると自家用車で来る方が圧倒的に多い。それにもかかわらず、他県から水戸に初めて来た人や運転にあまり慣れていない人はどこにどう向かっているのかが分からないのが現状である。車線の色分けやモータープールの整備等ドライバーにとって来やすい環境を整えるだけでも違うと思う。

議長 _____委員の御指摘の点は、62 ページの「(7) 観光案内板の整備」で触れられており、同ページの「(6) SNSによる水戸の魅力発信プロジェクト」などでも対応することであると思う。

委員 案内板も単に地名だけが書いてあって矢印が書いていなかったりもするので、どちらに曲がって良いのか外から来た人には、非常に分かりづらい。小さすぎて全然見えないような看板は、むしろ付けない方が良い。

委員 _____委員のおっしゃるとおりで、水戸インターチェンジを降りてから偕楽園への行き方が分からない。まずはそこから始めるべきである。

委員 外から来た人の目線で案内標識は作るべきである。それによって、市内に住んでいる人も分かりやすくなる。

委員 58 ページの「(3) 行政視察の受入の推進」について意見を申し上げる。行政視察の受け入れを待っているだけではなく、議会から進んで積極的に他自治体の議会に対して情報発信をしていってはどうか。子育て支援・多世代交流センターである「わんぱく・みと」や「はみんぐぱく・みと」の取組については他の自治体の関心が高く、また、芸術文化行政ということで、水戸芸術館への視察は多い。今後は震災復興という観点から、市庁舎の建替えのプロセスや弘道館の周辺整備を見せることを検討しても良い。まずは、他の市に誇れるようにするために、市民が誇れるまちづくりを行って、他市への情報発信へとつなげていきたい。

委員 「水戸女性フォーラム」では偕楽園、弘道館を中心に活動してきたこともあり、66 ページの「第5章 先導プロジェクト」に「歴史観光まちづくり推進プロジェクト」が入っていることは良い。67 ページの「今後5年間の重点的な取組」の「(1) 弘道館・水戸城跡周辺の魅力づくりの推進」は活動計画等を立てる上で、会員の人たちに説明しやすいつと感じた。また、80 ページの「第6章 推進体制と進行管理」に水戸市民・観光関連団体・水戸市・観光関連事業者が連携すると明示されており、一つの団体だけがやるのではなく、他の団体とも連携して大きな事業として企画してもらえると、たくさんの人に参加していただけるのではないかとと思う。

議 長 80 ページの「第 6 章 推進体制と進行管理」の「4 水戸市の役割」に市の役割として何かの主体になるとは書かれていない。市の役割は市民や団体が行うものを横から後ろから支援するスタンスのように見える。今は市が引っ張る部分もあるが、今後は市が民間に預けていくというスタンスが大事だと考える。現在 300 万人の観光交流人口を 9 年後に 450 万人にするのは行政だけでは無理だということである。

委 員 例えばおもてなしの養成講座を市が実施し、その講座を受講した人たちが手を組むといったような仕掛けを市で作ってほしい。そういった部分は市の役割ではないか。

委 員 水戸には子供たちを遊ばせる場所がないという話をよく聞く。38 ページの「(2) 森林公園周辺における観光果樹園等を活用した魅力づくりの推進」に「森林公園の再整備」とあり、森林公園には土地がたくさんあると思うので、「おもちゃの国」のような親子が遊べるスペースを作ってはどうか。水戸市は子育て支援に大分力を入れていることでもあるので。

議 長 _____委員はどう思うか。親子で遊ぶところが増えれば観光客が増えるかどうか。

委 員 そこは観光とは別だと思う。水戸ではないが、大洗水族館などは親子で遊べるのではないか。昔のレイクランドみたいなテーマパークのようなものがあればお客さんが呼べると思うが。

議 長 今までの水戸の観光はちょっと真面目なものが多かったのだと思う。

委 員 テーマパークのような人工的なものよりはこれからは自然を生かしたキャンプ場などのほうが良いのではないか。楽しみ方、遊び方を提案できるような環境があれば、家族連れを呼び込めるはず。

委 員 大洗にもキャンプ場はあるが、あまり人は来ていない。

委 員 山根小学校跡地活用について 12 月 15 日まで市民提案を受け付けている。周辺に観光果樹園、市民農園、森林公園、少年自然の家のようなキャンプファイヤーや宿泊もできる施設があり、農業や自然体験ができるグリーンツーリズムなどもこれからの検討課題と考える。地域性を生かして、佐川市長時代から山羊を飼っての水戸の名産品としてのチーズ作りを進めてきたが、これからはグリーンツーリズムを促進していくことも課題だと思う。

議 長 38 ページなどに書いてある体験型ということについて、記述をもっと膨らましていくということかと思う。

委員 昔、旧大洋村で果樹園付ログハウスなどが流行った。それ自体は失敗したが、水戸市内にも、家族で農業体験を楽しめるようなものがあったとしても良い。そうすれば、首都圏から2週間に1回来るようなことがあるかもしれない。

委員 グリーンツーリズム自体は計画には入っているか。

議長 38 ページに「グリーンツーリズムの体験イベント」と入っている。促進するとなっているので、それぞれでそれを応援していただければ。

委員 テーマパークの話があったが、それには広い敷地が必要である。偕楽園公園は中心市街地に位置する都市公園として世界第2位の広さがある。もう一度正確な広さを測って、その中で対処すれば、今出た意見のいくつかは、その中でかなえられるような気がする。様々な緑地が点在しているので、それをどうやって生かすかを考えれば良いのではないか。

委員 北海道は牛乳やじゃがいもなどの産地直送のものを生かして町おこしをやっている。飛行機も茨城空港から新千歳便が出来て非常に便利になった。各百貨店で全国の大きな都市の物産展をやっているが、水戸でも茨城の物産展などに相乗りする形で、場合によってはインターネットなども使って、売り歩くという基本的なことを地道にやるべきだ。前橋市や高崎市などの北関東の連携も必要ではあるが、茨城空港を利用した利便性を考えた売り方が重要になってくるのではないか。それによって茨城県又は水戸市の知名度も上がってくるのではないか。

事業者がそれぞれ頑張っても限界があるので、市民だけでなく、行政や物売る事業者が一体となって取り組む意識が必要である。

議長 北海道はイメージが湧くが、例えば神奈川県はイメージが湧かない。横浜、横須賀、湘南、箱根などのイメージが強く、それが神奈川のイメージになっている。茨城でも水戸や鹿嶋、つくばなどのイメージを強くすることで、茨城県のイメージ向上につながっていくと思う。都市のイメージが県全体のイメージになっていくと思う。

委員 各県の観光物産展が全国各地で行われていて茨城の物産展がないのは集客力がないからである。なぜ集客力がないかというと買いたいものがないからである。梅にこだわるなら、もっとバリエーション豊かな梅の商品をどんどん作るべき。おいしさで勝負しても良いし、おもしろいと笑ってくれるような商品でも良いので、水戸にはこれがあるというものを早く開発してほしい。また、納豆をおいしく食べられるお店がない。「おいしいものがあそこに行けば食べられる」というものをもっと考えたほうが良い。

議長 京都のタクシーが親切なのは京都のまちが好きだということもあるかもしれないが、親切にすれば儲かるという意識があるから。観光産業振興会議では「儲かるからもてなしをする」ような儲かる仕組みを考えるべきである。

委員 ヒット商品を考えるべきだと思う。買って良いと思える商品があれば儲かる。

議長 食べ物に限らず、ホテルやタクシーも含めた観光に関わる全ての事業者が観光で頑張れば頑張るほど儲かるということが大事なのではないか。私たちもそれを盛り立ててあげることが大切。

委員 買いたいと思えるような購買意欲をかき立てる商品を生み出すことができれば、儲かるのではないか。景色を楽しんでもらうだけでは儲からない。やはりおいしいものがあることが必要で、観光と食で十分満足できるから行こうとなる。どちらかが欠けても観光はうまくいかない。

委員 観て、食べて、ショッピングするというのが観光の基本的な流れ。それがポイントごとであれば客は来やすい。一つ一つは小さくても良い。今それがないものについては、きちんと整備してほしい。その基本が「観る、食べる、ショッピング」である。

議長 茨城空港などはそれで多くのお客さんを集めている。

事務局 今回の議論の内容は44ページ及び45ページの「5観光産業の強化・育成」に記載してあるが、今の皆様からの様々な御意見も踏まえ、先導プロジェクトにも位置付けるよう検討する。

委員 水戸藩らーめんにしても、黄門料理にしても、現代風のアレンジが足りない。過去のレシピに忠実にとすることは大切ではあるが、観光目的として使うのであれば、現代版にしなければ人気は出ない。

議長 そこら辺も含めて先導プロジェクトの中で位置付けていただければ。

委員 _____委員の「観る⇒食べる⇒ショッピング」は非常に重要な考えである。食やショッピングにつながるような施設の充実が必要である。しかし、観光PRについては市民1人が県外から3人呼べば観光客は3倍になる。私は率先して県外・海外にPRしていきたいと考えている。

委員 1か月前に広島、岡山を訪れた際に広島市の観光協会が実施していた観光についてのアンケートに協力した。中にいる人の意見も大事だが、外にいる人の意見は更に重要である。ボランティアを動員して、アンケート調査をしてはどうか。

また、黄門まつりは3日間あるが、花火だけ、パレードだけ、縁日だけに分かれていてバラバラになっている印象がある。子どもたちを連れていく際に、3日間連れ歩くのは難しいので、3日間のうち、どの日に連れていくか迷ってしまう。

議長 アンケートの実施については、「第6章 推進体制と進行管理」などのどこかに入れられるように検討してほしい。

委員 最近はツイッターやフェイスブックで外の意見を聞くこともできる。それをくみ上げてはどうか。

事務局 今後、観光審議会は毎年継続して開催することを予定しており、その中でもまっりの内容の中身などについても審議いただきたい。

委員 わざわざ水戸に来なければいけない理由を作るべきである。興味のない人にいくら呼びかけたところで来るわけではない。来てもらうためには、コンベンションの誘致、スポーツ大会の誘致が重要である。コンベンションの主催団体の事務局の金銭面や運営面の負担を軽減できるような仕組みを提供すべき。スポーツ大会は小学生や中学生の大会であれば、親がついてきて、結果として観光もついてきて、お土産もついでに買ってくれる。まずは水戸に来させる施策を、これまで意見で出たものと並行して行っていくことが大事である。

教育旅行の誘致や、県北での民泊とのセットで偕楽園、弘道館などの水戸の観光地を半日回るなどの仕掛けができれば良い。子どもなどの次世代のお客さんを育てていくことも大事だ。

委員 金沢には加賀御膳というものがあるが、水戸では水府御膳、常陸御膳、水戸御膳など考えても出てこない。その辺りの水戸全体のイメージ作りが重要。これまで観光に頼らないまちづくりができていたこともあり、茨城全体が観光に長けていないと思うので、意識改革が必要である。魅力度ランキングで47位になったのは、東京中心に考えたときに、茨城は日帰り圏内にあり、行こうと思えばいつでも行けるといことで意識の外にあるからではないか。観光に来た人はお金を使いたいと思っているが、水戸では使うところがない。まずは様々な物が揃った物産館を作ってはどうか。また、優良タクシー乗務員の認定制度があるが、認定された方はタクシーなどに「私は優良乗務員ですよ」というような表示はあるのか。

事務局 タクシーの車体の側面に標識を貼っている。室内にも同様の標識がある。インターネットで名前も公表している。タクシー会社各社にお問い合わせいただければ、優良乗務員を指名することもできる。

委員 実際の乗り合わせの際は、目の前に来たタクシーに乗るようなものであるだろうから、実際の場面では指名は難しいかと思う。いずれにしても、タクシー一つにしても観光地に行けば気持ち良い思いをする。その底辺には観光がなければ食べていけないという思いがあるのだと思う。

委員 いろいろな人が県外から水戸に来た場合に、観光地を観る以外に、食べることと、お土産を買うことの二つがある。水戸市民は、テレビインタビューなどでも、「あんまりおいしいものないよ。」と自慢せずに卑下する傾向があるが、水戸にはおいしいものがたくさんあるので、各お店が努力していることを外に向けてPRする方法が必要である。

議 長 　　実は地元の人でさえ地元の良いものを満喫していない。例えば、メロンや海。まずは我々が満喫してみるべきである。地元の人が楽しんでいるのを見せることで、県外の人もうらやましくなって来たくなるのではないか。

委 員 　　あまりにも「納豆」が有名になり過ぎて、それが古いイメージを背負って発信されてしまっている。

議 長 　　42 ページの「4 国際観光（インバウンド観光）の推進」で気になった点がある。2020 年の東京オリンピックまでにやることがあるのではないか。もちろんその前年の茨城国体もそうである。県のおもてなし条例制定の動きも絡めて、もっとそのことに触れてはどうか。また 66 ページの「第 5 章 先導プロジェクト」の「市民おもてなし運動推進プロジェクト」は、全てのプロジェクトに関わるものであり、一番最後の項目に記載するべきである。

それと、重要なことだが、24 ページの「目指すべき将来イメージ」はこれで良いか。今回で決定しなければならない。

委 員 　　あまりにも抽象的な感じはする。

委 員 　　前回の審議会の議論も踏まえ、調整してこうなったので、これで良い。

委 員 　　事務局と会長、副会長で話し合っていて決めていただいたのであればこれで良いのではないか。今までの議論の経緯を考えれば、この文言が適切だろう。

議 長 　　多少、八方美人な感じはするので、_____委員の意図とは違うかもしれないが。

委 員 　　いかにも「普通」だ。インパクトを求めるのであれば、もう少し違うキャッチコピーのようなものがあつたほうが良いのではないか。

議 長 　　計画全体のイメージということであるので、御理解いただければ。

委 員 　　10 年間の計画ということであれば、あまり細かく書いてしまうと厳しくなってしまうので、これくらい大きくてぼんやりしていた方が良い。

委 員 　　もし、キャッチコピー的なものを入れるとすれば、それこそ「魁のまち 水戸」というのをバンと載せた方が良いと思うが。

委 員 　　とりあえず、今後 10 年間はこれで行けば良いのではないか。私は異議なしだ。

—————反対意見なし—————

議 長 　　それでは、将来イメージについては、この文言で進めさせていただくこととする。その他、言い足りない意見等はあるか。すぐに出なければ、この後、事務局か

ら説明するワークシートによって出していただいても良い。

委員 「おもてなし」は自主的に心を砕いて行うもので、こういうふう「おもてなし」と言葉で書かれてしまうと他の人がやれば良いという気になってしまう。

議長 おもてなしのセミナーなどに出ると作法の側面をやっているところが多いが、おもてなしは単なる作法だけではない。知識、気遣いが必要である。気遣いなしの作法は慇懃無礼。知識と気遣いがあれば、極端なことを言うと、作法はなくても成立する。作法があればなお良いというもの。知識、気遣い、作法の3点を市民みんなができるようになると良い。

委員 漠然と「おもてなし」ではなく、どのようなおもてなしがあるのか細かく指示した方が良い。

委員 おもてなしの方法は個人個人によって違う。もてなす方も受ける方もそれぞれ感じ方が異なる。できることからやるのがおもてなしである。

議長 最後の先導プロジェクトに「観光産業の強化・育成」を加えるということになったということで、先導プロジェクトは全部で6つということになるが、それ以外に皆様の方で御意見はないか。それでは、続いて、今後の策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料『水戸市観光基本計画(第3次)』策定のスケジュールについて[参考]に沿って、今後の策定スケジュールについて説明)

議長 ありがとうございます。さて、事務局から説明のありました、今後の計画の策定スケジュールにつきまして、何か御質問、御意見等はございますでしょうか。

—————発言なし—————

議長 特になければ、時間の関係もございますので、あとから思い出した御意見等は、お手元にお配りいたしました様式で、11月5日(水)までに郵送、Eメール、FAX等により事務局宛て御提出いただければと思います。続きまして、その他ということでございますが、事務局から何かございますか。

事務局 事務局より今後の予定につきまして、御説明いたします。本日、皆様から頂きました御意見につきましては、先ほど御説明いたしましたスケジュールに従いまして、事務局で整理いたしまして、庁内検討委員会等を通して、関係する部署等との調整を行ってまいります。次回の第4回観光審議会につきましては、意見公募手続等の終了後の2月に予定しております。日程と会場につきましては、後ほど御通知申し上げます。御多忙のところ申し訳ございませんが、御出席のほどよろしく願います。

議 長 皆様も、ほかに何かございませんか。

議 長 その他、特にないようであれば、以上をもちまして、本日の審議事項は全て終了いたしましたので、ここで議長の役を終えさせていただきます。皆様、御協力、誠にありがとうございました。

事務局 以上をもちまして、平成 26 年度第 3 回水戸市観光審議会を閉会とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。